

# ガルバプラグ UW

CREDENCE

グラウト用無収縮モルタル — 水中不分離型

「ガルバシールド工法指定材料」

「ガルバプラグ UW」は、特殊混和材と水中不分離技術を融合した水中不分離型無収縮モルタルです。汎用タイプより粘性を抑え、練混ぜ性、施工性を向上させながら、水中不分離性にも優れた製品です。また、犠牲陽極「ガルバシールド工法」の指定材料です。

## 特長

### ■ 優れた水中不分離性

水中施工において、優れた水中不分離性を有し、周囲への環境負荷を抑えることができます。

### ■ 優れた流動性

モルタルの流動性が優れており、確実な充填を可能にします。また、低温時から高温時までの流動性がほぼ一定で、夏季、冬季でも安定した流動性を得ることができます。

### ■ 高い強度発現性

水中施工においても安定した優れた強度発現が得られます。

### ■ 構造物の一体化

ブリーディングが発生しない無収縮モルタルのため、既存コンクリートと一体化が図れます。

### ■ プレミックス

現場で所定水量と混ぜるだけで高品質な無収縮モルタルが得られます。

### ■ 施工性

従来の無収縮モルタル同様、流動性に優れているため、空隙の無いグラウトを可能とし、迅速な施工が可能です。

### ■ 経済性

優れた品質と良好な施工性から、総合的に工事費を削減できます。

## 仕様

### ■ 標準使用量

標準配合	フロー (mm)	単位量 (kg)	水 (kg)	練上がり (L)
m3	200	1,700 (68袋)	394	1,000
1袋	300	25 (1袋)	5.8	14.7

注) 水量範囲：5.0～6.6L/袋

気温等により水量は多少変動しますので、事前に試験練りを行い、水量の確認を行って下さい。

### ■ 物性試験結果 (例)

一般物性

	5℃	20℃	30℃	
水量 (kg/袋)	6.2	5.8	6.0	
フロー (mm) ※1	255	250	252	
ブリーディング率 (%)	0.00	0.00	0.00	
膨張収縮率 (%)	0.54	0.57	0.60	
凝結時間 (時間-分)	始発	14-50	6-30	4-00
	終結	23-30	8-30	5-30

圧縮強度

		5℃	20℃	30℃
気中採取 (N/mm <sup>2</sup> )	3日	8.9	40.6	54.6
	7日	31.4	58.3	63.1
	28日	53.6	70.9	67.3
水中採取 (N/mm <sup>2</sup> ) ※2	3日	7.3(82%)	35.2(87%)	46.9(86%)
	7日	26.9(86%)	53.4(92%)	54.0(86%)
	28日	48.3(90%)	64.7(91%)	63.3(94%)

※1) JISR5201 に準拠したコーンを使用

※2) 型枠を水中に置き、上面から注入し成型

( ) は気中採取に対する強度比

## 用途

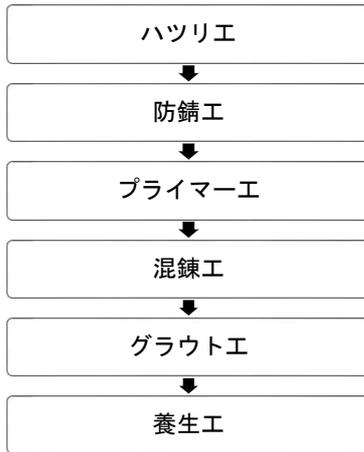
### ■ 棧橋などの港湾工事

### ■ 河川にある橋脚の耐震補強工事

### ■ その他、水中施工が必要なグラウト工事

## 施工方法

### ■ 施工フロー



### ■ 施工手順

- ① コンクリート表面の清掃
    - ・ コンクリート表面の油類、レイタンス層、泥土を除去し洗浄して下さい。
  - ② 混練
    - ・ 練混ぜは、清浄な水を使用し、袋単位で使用して下さい。
    - ・ 使用水量は、材料温度、ミキサの形式などにより変化しますので、試験練りにより確認して下さい。アルミ製羽根は異常膨張の原因となりますので絶対に使用しないで下さい。
  - ③ グラウト工
    - ・ プライマーは「GP プライム」を使用して下さい。
    - ・ グラウトは、自重圧工法またはポンプ施行により片側から注入を開始し、流出側からモルタルがあふれ出るまで連続的に注入して下さい。巻き込み空気や未充填部が残らないように施工して下さい。
  - ④ 養生工
    - ・ 養生は「GP コート」、もしくはモルタル表面を養生マット等により、直射日光や風の影響を避け、絶えず湿潤状態を保持して下さい。冬場等で外気温が低い場合（5℃以下）には保温養生を施して下さい。
- ※詳細は施工要領書を参照下さい。

### ■ 施工状況



## 荷 姿

25 kg / 袋

## 保管上の注意事項

- 吸水性が高いため、一度開封した袋は同日中に使用して下さい。
- 直射日光、雨水の影響を受けない、乾燥した冷暗所などの室内に保管して下さい。

## 安全衛生上の注意事項

- アルカリ性を有しますので、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等の保護具を着用して下さい。
- 目に入った場合は、直ちに清浄な水で十分洗浄し専門医の診断を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で洗浄して下さい。